



日本サーバス会報 2016年8月22日発行 日本サーバス会長

体温を超える連日の暑さと北海道への台風上陸、会員のみなさま方におかれましてはご健勝にてお過ごしでしょうか。ご自愛くださいませ。

さて、諸々の事情で本部会報の発行が大幅に遅れてしまいご迷惑をおかけしておりましたが、少しずつ本部活動を軌道に乗せるべく努力をしているところです。会員のみなさまの暖かいご支援に感謝しつつ、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。新体制下、はじめての会報をお届け致します。

会報目次

1. 「出会い」—ご挨拶に代えて	日本サーバス 会長
2. 退任にあたって	日本サーバス 前会長 T. K.
3. 日本サーバスの会計の任をおりて	日本サーバス 前会計 I. Y.
4. 新本部会計ご挨拶	日本サーバス 新会計 Y. I. (関東支部)
5. 韓国サーバスの表敬訪問と交流について	日本サーバス北海道支部長 Y. S.
6. モンゴルキャンプ	日本モンゴル障がい児交流会代表 日本サーバス近畿支部長 H. T.
7. 日本サーバス本部の動き	

1. 「 出会い 」—ご挨拶に代えて

日本サーバス 会長

「人生は出会いである」、とよく言われます。みなさまと同じように私とサーバスにも忘れられない「出会い」があり、それが私の人生にいろいろな「出会い」をもたらしてくれています。今回は私のその「出会い」を紹介させていただきます。

1976年、今から40年も前のことです。アメリカ建国200年、ベトナム戦争終結から1年経過した年でした。当時、英語教員として働いていましたが、前年まで続いていたベトナム戦争の北爆やナパーム弾、枯れ葉剤、抗議の焼身自殺、小銃を構えた武装兵に追われ、裸のまま逃げ惑う女・こどもたち・・・等、様々な映像や報道に胸を痛め、生徒たちと「人間ってこんなひどいことをするんだね、どうすればこんな争いをやめられるんだろう」、などと話をしたものでした。

そして「アメリカの人々はこの戦争の間、どのような気持ちで、自国から遠く離れたアジアの小国との戦いを見ていたのだろうか、人々の生の声を聞いてみたい！」と言う気持ちが強まり、アメリカへでかけることを思いつきました。

時あたかも合衆国建国200年、いろいろな歴史的イベントにも出会えるかもしれないという期待感もありました。幸いに同行希望者も見つかり、バックパック旅行を企画しました。

当時は旅行会社の数も少なく、インターネットもありませんので、なかなか有効なアドバイスが得られません。主な情報源は雑誌と旅行本です。そんな中、ある旅行本の中で、ホームステイできる組織として「サーバス」ということば（一行程度）が目にとまりました。連絡先も記されています。すぐに資料請求の手紙を送りました。そしたら、便せん2枚、びっちり手書きで書かれた返事が届き、とても感激したのを覚えています。そこに九州支部長名と連絡先が記されていたので、すぐにお電話をし、同行予定の友人とお宅を訪問しました。

当時のサーバスは、入会后1年間はホストを経験し、それからトラベラーになる、という申し合わせがあったようですが、支部長の裁量権に任せられている部分も大きかったようです。私たちは旅行後、ホストとして活動することを条件にトラベラー認定をしていただきました。はからずも支部長さんと私の夫が知り合いだったというラッキーな巡り合わせもありました。

そのとき、お借りして帰った合衆国とカナダのホストリストから私たちのプランに合うホストを抽出し、あらかじめ作っていたトラベルプランと返信用切手のクーポンを同封してせっせとステイ依頼の手紙を書いて送りました。「見ず知らずの人に泊めてくれというのはあまりにも虫が良すぎる依頼ではないか」という思いもあり、「ダメ元」の気持ちでおりましたところ、ぽつぽつと返事が届きはじめ、そのほとんどがWELCOMEなのです。中には何日間泊まっても構わないとか、〇〇には娘がいるからそこにステイしたら？とか、非常に好意的で驚きました。

ベトナム戦争のこともあって、アメリカ合衆国に対してある種の角度を抱いていた私に、「世の中にはいろいろな人がいる。単純図式化して固定的にモノをみてはいけない」、ということを具体的に教えてくれるきっかけになりました。この時の、アメリカ・カナダ五週間のバックパックの旅は、その後の私の人生に大きな影響を与えてくれます。

手元の「旅ノート」には、問い合わせに応じて送ってくださった便せん2枚のお返事が貼付されています。差出人は「日本サーバス友の会近畿地方総支部長 A. T.」さん。今の日本サーバス名誉会長です。（このことを青木さんは覚えていらっしゃると思いますが・・・）

あのとき、私の問い合わせをスルーされていたら、サーバスとの出会いはまずなかったでしょう。そして日本の最西端の駅の看板を掲げるこの市からみなさまにこのようなご挨拶をすることもなかったでしょう。不思議なご縁です。

サーバスは人と人をつなぐ役目を負った組織です。お互いに不思議な縁を大事にしながら、一つしかないこの命を大切に使っていきたくと思っています。至らない者ですがみなさまのお力添えを得ながら、山積する課題に当たっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

2. 退任にあたって

日本サーバス 前会長 T. K.

本年3月の札幌会議が九州支部の緒方さんを満場一致で新会長に選出したことは、日本サーバスにとって大変重要な前進であり、私にとって大変喜ばしい快挙でした。

私がTさんの後を引き継いだ2010年に台北で東アジア大会があり、私は「日本サーバスの会員数はピーク時1980年代の450名余から300名近くにまで減少し、会員の高齢化も進んでいる。会員数の増強、特に若い世代のリクルートが日本サーバスの最重要課題である。」とスピーチしました。その頃急速に会員数が増加していた台湾と韓国を意識した発言でしたが、国内会議では「日本サーバスの活性化」のテーマで何度も話題になり、例えば関東支部のMさんが諸方の大学に出向いてPR活動をされました。しかし本部としての積極的な対策も施策もないまま、会員数が260台まで落ちた状態で引き継ぐのは、0さんにも会員の皆様にも申し訳ない限りです。

2011年3月11日の未曾有の大災害の後、東北支部のTさんがピースセクレタリーとしてサーバスの名前を入れた支援活動を展開され、現在まで継続しています。私はささやかな金銭的応援することで自己満足して、活動の拡大と深化を図ることはできませんでした。

2012年は、1962年に「サーバス友の会」が発足してから50年の節目の年でした。立派な50周年記念誌が上梓されたのは近畿支部の青木さんの奮闘の成果であり、盛大な記念国内会議を京都で開催することができたのは、平井さんはじめ近畿支部会員の協力の賜物です。同じ年にポーランドで世界大会がありました。日本サーバスの存在感が示

されたのは残念ながら会議場ではなく、パーティーの席で近畿支部の T さんのオカリナ演奏と、日本サーバス宝塚ガールズの公演？によってでした。

2013 年には、前世紀末から国際サーバス東アジアコーディネーターの大役を務められた九州支部の N さんが最後に召集した東アジア会議が、中国広州市の有名な中山大学の施設で開かれました。台湾代表は欠席でしたがモンゴル代表の初参加を含めて有意義な会合でした。中国サーバスは停滞気味ではないかとの感想に対する「民間団体として当局と摩擦を起こさないように細心の注意を払って活動している」との説明に納得しました。

2014 年の名古屋国内会議では、NPO 法人化の課題について真剣な議論が交わされましたが、結論は得られず、進展させることはできませんでした。

2015 年の福岡国内会議では、会場でスカイプによる国際サーバス会長との交信が実現しました。IT 化によるサーバス活動のレベル向上は長年の課題であり、ついに日本サーバスも印刷版ホストリストを廃止しました。それに代わるネットワークを活用あるいは対峙してメリットを享受するのは容易ではありませんが、個々人が基本的には face-to-face で善意を交換するサーバス活動の真髄は技術を越えたレベルにあるはず です。

同年のニュージーランド世界大会の参加者や現地の会員に高齢化が進んでいる印象は否めないのですが、若い世代の中には、混迷・閉塞する世界情勢の中でサーバス活動に突破口を見出していこうとする人もいます。日本サーバスの中でも、志ある若い世代の会員が活発な活動を展開してくださることを期待したいものです。



第38回 2016年度 日本サーバス国内会議 参加者集合写真
(韓国サーバスからも6名、出席いただきました)

この間ずっと、会計関係では関東支部の I さんと近畿支部の M さんにお世話になり、近畿支部の T さんにはホストリストばかりでなく文書全般の管理にご努力を継続していただきました。

札幌会議以後の特殊な状況は、九州支部の N さんと北海道支部の Y さんに膨大な知恵とエネルギーを提供していただいて乗り切ることができました。これらの皆様に感謝しつつ、今後も自分の力の及ぶ範囲で日本サーバスの活動に参加していきたいと思えます。

3. 日本サーバスの会計の任をおりて

日本サーバス 前会計 I. Y.

日本サーバスの会計の仕事をと申し出が有ったのは、主人を 2000 年 2 月に見送り、その後片付けが一段落して、なんだか、生活の中心が無くて落ち着かなく、張り合いの無い、気持ちをもてあそんでいる頃でした。数字に強いどころか、むしろ苦手でした。

サーバス会員となったのは 2003 年 11 月ごろ関東支部の支部長であった I 氏に面接を受け、2004 年からの会員となりました。会員歴が浅いにも関わらずお役を引き受けたのでした。前任の U さんは 2 年で降りたのに反して、2015 年度まで 8 年間もだらだらと仕事を引き受けていました。今から思えば、会の活性化のために早く次の方にバトンタッチすべきでした。そのあいだ N. M. さん、T. S. さんのあと T. K. さんと会長が変わりました。

このあいだサーバスの会員にも変化が有りました。会員歴が長い方が多いこと、最近では年齢のゆえに退会が多くみられ、その反面、新しい会員が入会しても、海外からのゲストをお世話する機会に恵まれず退会をする人が多い傾向が続きます。会員の定着がこれからのサーバスの課題かと思えます。

ゲストの受け入れにも変化が有りました。当初は小型のパソコンを持ち歩く人がいました。それから、スマホやアイパッドが登場してそれを持っていたり、Wifi を使えないかというので、教えると自分のスマホにつなげて容易に情報をゲットする人が増えました。ですからゲストに迎えても、道案内をしないで、交通手段の説明をするだけの場合が多くなりました。

東京近辺では都市部に集中して、ゲストがステイを希望するので受け入れが特定の会員に限定して集中してしまうので、最近はずこし郊外へ行くように勧めています。時に他の地区へ行くようにも進めています。

これからは一会員として繋がってまいります。よろしくお願い致します。

4. 新本部会計ご挨拶

日本サーバス 新会計 Y. I. (関東支部)

長年携わっていらっしやいました I 様の後を引き継ぐことになりました。よろしくお願ひいたします。

天野様がお元気だったころからの会員ではありますが、4年前まで常勤でしたので、SERVAS 組織運営にかかわる余裕はありませんでした。支部会のたびに、本部会計担当者が、「もう何年も前から会計を交代したいと言っているのに、誰も代わってくれない」と嘆かれるので「じゃ、代わるよ」と引き受けました。そこで初めて、数年分の年会費を滞納している会員が片手程もいることを知りました。また支部役員の事務経費が涙金でボランティアそのものだということも実感しました。正直に言えば、本部会計の交代を申し出たのも同じいきさつでした。

会則第5条では「、、、会員同士の、、、を通じて、善意、相互理解及び相互の寛容を深めることによって、、、、」とあります。今一度、会則を尊重して原点に立つべきと思います。

今年度すでに承認されている本部会計予算案に即して施行していきます。会員減少化にあって年会費だけで運営されるSERVASの会計は厳しい状況です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

5. 韓国サーバスの表敬訪問と交流について

日本サーバス北海道支部長 Y. S.

今回の日本サーバス札幌国内会議に祝意を表したいということで、遠路はるばる、初代韓国サーバス会長のオムさんをはじめとして6名の方のご出席をいただきました。

韓国サーバスは、N. M.元会長の多大なる尽力もあり、現在では日本サーバスを超える会員を誇るほどになりました。実は、初代会長のOさんはじめ十数名の会員が1996年10月に九州での東アジア国際会議の際に北海道まで足を延ばしていただき交流をさせていただきました。そのようなこともあって再度の訪問ということになりました。

3月12日の懇親会では、まさに胸襟を開き実に楽しい懇談、更には北海道支部からは会員のファゴットの演奏、ジャマイカでシニアボランティアとして活躍された会員からは、

算数のお勉強の歌が披露されました。一方韓国からは素晴らしいバイオリンの演奏が披露されました。なごり尽きない交流の最後には、バイオリンとファゴットの日韓のセッションに合わせ「アリラン」の合唱になりました。まさに国境、民族を超えたサーバス精神そのものでした。彼らは翌日も2時間ほど札幌国内会議の方にも出席くださり我々の熱心な討議に耳を傾けていただきました。

更に、今年の9月30日から10月2日まで韓国で開かれえる東アジアサーバス国際会議の案内も紹介されました。本当にわざわざ参加をいただき心から感謝申し上げます。誠に有難うございました。

チンシムロ カンサムニダ！ でした。

この誠に微笑ましく、心温まるサーバス交流を、当初議事録に掲載しようかと考えました。結局、紆余曲折がありましたが、議事録は、端的に議事の内容に徹することになり、本部会報で紹介させていただきました。数枚の写真からその場の雰囲気を感じとっていただければ誠に幸いです。



6. モンゴルキャンプ

日本モンゴル障がい児交流会代表
日本サーバス近畿支部長 H. T.

モンゴルサーバス会長Hさんより「モンゴルでは障がい児が教育の場から取り残されているので、日本の障がい児教育に学びたい」との要請を受けて、昨年、日本サーバス

主催、近畿支部受入れで、モンゴルの方に、近畿にて障がい児教育を研修して頂きました。その後もモンゴルとの協力関係を続けていきたいと、日本サーバス等研修に協力した者で日本モンゴル障がい児交流会を作りました。今夏、日本側、障がい児家族10名(1家族2名直前キャンセル)を含む交流会のメンバー18名、モンゴル側17名でモンゴルにて、交流キャンプを行いました。

日本側は8月1日関西空港発夕方モンゴル着、2日ウランバートル観光、3～5日テルレジにて交流キャンプ、6日テルレジ発ウランバートル、7日モンゴル発日本帰国の日程でした。キャンプ場はテルレジ国立公園というモンゴルの美しい自然の中にあり、私たちの乗馬をしたいという希望を基にHorse riding camp場を選んで下さいました。夜は地上まで星が輝き、天の川をはじめ、夏の代表的な星座、北斗七星、カシオペア座、夏の大三角がくっきり見えました。そんな美しい自然の中で、私たちは交流プログラム、乗馬、ウォーキング、コンサート、フェルト作り、スポーツ、日本とモンゴルのクッキング、ペインティング等を楽しみました。フリータイムもたっぷりあり、豊かな景色を見ているだけで幸せでした。大人の私たちは言葉の問題で十分話し合う事が出来ませんが、子供たちはそんな事に関係なく、心を通じ合わせ、非常に楽しく遊んでいました。人が理解しあうって理屈ではない、こうして共にいる事だと実感し、とても感動的でした。これこそ私たちが目指す平和の原点だと思えました。最後の閉会式では、皆が今後も交流を続けていこうと感想を言い合いました。

モンゴルの豊かな自然、モンゴルの人たちの深い温かさを心に満たした素晴らしい交流キャンプでした。



別の話題になりますが、モンゴルのサーバスについてお知らせします。2年前はモンゴルサーバスの会員は4人と言われていましたが、今年は、昨年、日本に研修に見えていた方も会員になられていて6人に増えていました。その方が今年10月、日本に来られ、サーバスステイを希望されています。ヒシゲさんは会員にステイ体験をしてもらうことでサーバスのすばらしさをわかってもらい、モンゴルの会員を増やし

ていきたいとされています。来日される方の日程等が送られてきたら、皆さんにお知らせしますので、温かく受け入れ、サーバスって素晴らしいという素敵な経験をしてもらいたいと思っています。今後ともいろんな面でご協力を宜しくお願いします。

7. 日本サーバス本部の動き（時系列で主なものを紹介します）

(1) 国内会議議事録公開：HP 会員専用ページ「サーバス本部からの報告」に掲載

2016 年国内会議（札幌会議および京都会議）の議事録をホームページ上に公開しています。札幌会議後から京都会議までの経過報告も掲載しています。少々長くなっていますが、ご一読いただければと思います。日本サーバス本部の活動は国内会議の決定に基づき展開されております。

(2) 新しい取り組み：プロジェクトチームの結成

札幌国内会議で日本サーバス本部の運営・実務面での向上が話題になり、直面する課題への対応をスムーズにするために会長委嘱で事務局員を増強すること、必要に応じてプロジェクトチームを設け、課題解決への方策をさぐること等が決定されました。それを受けて今年度は以下のプロジェクトチームをつくりました。会員であればどのチームにでも加わることができますので、手伝ってもいいな、と思われるものがありましたら、ぜひお願いします。チームリーダーから直接声かけがあるかもしれません。お力をお貸し下さい。尚、プロジェクトは必要に応じて結成・解散があります。

プロジェクト名	リーダー名	主 な 内 容
A 文書 チーム	T. M.	日本サーバス関係の文書の整理・保管・更新提案・デジタル化等
B NPO チーム	K. M.	仕組みと日本サーバス組織との対照、その是非、日本サーバスの会則・活動への適否等も含めて検討
C サーバスオンライン(SOL) チーム	N. S.	国際サーバスの” SOL” (Servas On Line システム) についての理解と日本サーバスの対応の方法等
D SYLE チーム(サーバス語学研修)	K. N.	SYLE(Servas Youth Language Exchange) の可能性について検討し、利点、課題等を明らかにしていく作業
E 国際部チーム	T. K.	国際サーバスとのやりとり、国際的問題発生時の対応、必要に応じた翻訳等
F 国内会議チー ム	Y. S.	開催地（旅費・集まりやすさ等）、提出議題の整理、会議録等々。会議そのもののあり方も検討。

G 財政チーム	H. T.	諸活動に伴う財政の試算、提言、その他財務一般に関するもの
H 組織問題・運営チーム	Y. S.	組織内の不協和音、トラベラー・ホスト・会員等からの苦情や問題行動等の受付と対応

(3) 日本サーバスユース部会長退任：ユース部会長代行に I さん

D. A. ユース部会長から一身上の都合による辞任の申し出がありましたので、承認しました。その後をユース部副会長だった I. M. さん(中四国支部所属)がユース部会長代行を引き受けてくださり、国際サーバスユース関係の対応をさせていただきます。

(4) 電子版ホストリストの更新：7月更新が終わりました

従来の紙版のホストリストの更新は年1回だけでしたが、電子版ホストリストはIT委員長によって年3回更新されています。各支部長は、新入会員や会員のみなさんからの変更申し出の情報を次の年を待たずに更新できます。これは会員にとって利点ですが、その一方、お世話をする支部長やホストリストコーディネーター、IT委員長の事務量が増えている点は見逃せません。お互いにねぎらいの気持ちをもてたらいいなと思います。電子版ホストリストを閲覧する方法については各支部長にお尋ねください。

(5) 公開質問状に関して：会長見解を公表

0 中四国支部長・T 東北支部長より出されていましたが 2016 年国内会議を巡る問題等に関しての公開質問状に対して、会長の見解をメーリングリスト上で公開いたしました。日本サーバスから会員のみなさまへのお知らせやお願い等の連絡は通常は役員間のメーリングリストに配信し、支部長に所属会員への配信をお願いする形にしていますが、この種（「公開質問状」・「見解」）の配信を迷惑に思われる一般会員のみなさまも多数いらっしゃることを考慮して、「各支部で全会員にご転送ください」、の要請はいたしておりません。ご関心のある方はファイル送信を支部長または直接会長に希望してください。ご希望のあった方には個別に送信いたします。

(6) 国際サーバス会報 2016 No. 2：日本語解説つきを配信

国際サーバス (Servas International 略称 SI) からの会報は今までもずっと配信されていましたが、今回からの新しい試みとしてプロジェクト「国際部」に日本語解説をつけていただくようにしました。その配信をつい先日行いましたので、各支部長を通じてみなさまのお手元にも届いていることだと思います。この種の手伝いだったらできる、とおっしゃっていただける方はぜひ、申し込んでいただければ大変ありがたいです。

(7) 東アジア会議参加：16名が参加予定

East Asia Meeting が 2016 年 9 月 30～10 月 2 日韓国百済で行われます。各支部で募集を募っていただきましたところ、全国から 16 名の参加希望がありました。東アジア地区のサーバスのみなさんとお互いの活動を紹介し合い、学び合ってきたと思います。韓国サーバスの方のご尽力で充実したフィールドワークも企画されているようですので、それへの参加も楽しみの一つです。次回の会報で参加報告を行いたいと思います。

編集後記

今年度からロゴマークを一新し、できる限り新鮮で且つ広い世界の活動を分かりやすく、みなさまにお伝えし、楽しいものを目指したいと編集担当者と話し合っているところです。

本部会報はみなさまとの双方向の貴重な交流の場でもあります。会員各位の日々の熱心な活動の中から心打たれる交流や体験、そしてぜひ会員のみなさんにお知らせしておいた方がよいことなどお寄せいただければ幸いです。尚、会報への採用不採用は、編集担当者と決定させていただきます。何卒よろしく願いいたします。

(宛先：日本サーバス会長)